

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

現在の定時制高校は、これまでの勤労青少年の後期中等教育機関としての役割とともに、全日制高校中途退学者や不登校経験者、学習障がい等がある生徒等、さまざまな学習目的や動機をもつ生徒の学び直し場として、また、社会人の生涯学習の場としての機能も果たしている。こうした状況を踏まえ、社会の有為な形成者としての基礎を培う全人教育並びに、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性をはぐくむ教育に努め、次のような生徒を育てることをめざす。

- ① さまざまな困難に挫けず、自分なりのスタイルやペースで自己実現をめざす生徒。
- ② 周囲への気配りを忘れず、思いやりのある態度を備えている生徒。
- ③ 互いを認め合い、共に生きることの大切さを理解している生徒。
- ④ 毎日の生活のリズムを乱さない等、基本的な生活習慣が備わっている生徒。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実

(1) 「分かる」「できる」「楽しい」を実感させる授業をめざす。さらに、社会で必要とされる生きた学力を身につけられるようにする。

ア 授業内容や指導方法、学習教材を工夫し、生徒の基礎学力を定着させる。

イ 教育課程編成を工夫し、生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応する。

※生徒向け学校教育自己診断結果における授業に関する質問での肯定率（令和元年度 72.4%）を毎年引き上げ、令和4年度には80%以上にする。

平成29年度 77.0% 平成30年度 69.1% 令和元年度 72.4%

2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援

(1) 互いを尊重しあう精神を養う。また、人権感覚を養い、自他の人権を守ることができるようにする。

ア ホームルーム活動や学校行事、部活動を通じて、自主性を高め協調性を育てる。

※生徒向け学校教育自己診断結果における行事に関する質問での肯定率（令和元年度体育祭 86%、文化祭 87%）を令和4年度も85%以上を維持する。

平成29年度体育祭 83%、文化祭 83% 平成30年度体育祭 77%、文化祭 77% 令和元年度体育祭 86%、文化祭 87%

イ ホームルームや総合的な探求の時間を活用して人権教育を実施し、人権感覚を養う。

(2) 生徒の課題や背景を踏まえ、生徒のサインを的確に捉えて適切な対応を行い、生徒の自己実現を支援する。

ア 家庭との連絡を密にし、基本的な生活習慣を確立させる。

イ 計画的・系統的なキャリア教育を行い、卒業後の進路について考えられるようにする。

ウ 中学校等との連携を強化する。

※生徒向け学校教育自己診断結果における社会のルールに関する質問での肯定率（令和元年度 84.9%）を毎年引き上げ、令和4年度には90%以上にする。

平成29年度 84.1% 平成30年度 80.4% 令和元年度 84.9%

※生徒向け学校教育自己診断結果における進路に関する質問での肯定率（令和元年度 80.5%）を毎年引き上げ、令和4年度には85%以上にする。

平成29年度 84.3% 平成30年度 80.6% 令和元年度 80.5%

※進学者等を除く卒業生の学校斡旋就職率（令和元年度 47.6%）を毎年引き上げ、令和4年度には50%以上にする。

平成29年度 40% 平成30年度 43.8% 令和元年度 47.6%

(3) 学業継続が困難な生徒に積極的働きかけ、課題解決への支援を行い、学校への定着を図る。

ア 中退防止コーディネーターを核とし、組織的に生徒を支援する。

イ SSW等との連携を図り、相談体制を充実する。

※令和4年度には、文部科学省が公表する平成30年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率の9.3%以下を目標とする。

平成29年度 12.1% 平成30年度 9.6% 令和元年度 16.3%

3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進

(1) 組織体制の改善・充実を図り、機能的な運営に努める。

ア 校内研修の実施やOJTにより、教職員の資質を向上させる。

イ 学校運営組織の強化と効率化を図り、勤務時間を縮減する。

※教職員向け学校教育自己診断結果における校務運営に関する質問での肯定率（令和元年度 100%）を令和4年度も90%以上を維持する。

平成29年度 89.5% 平成30年度 95.2% 令和元年度 100%

(2) 保護者や中学校、地域等に、教育目標や教育活動について情報提供を行い、地域とつながる学校づくりを推進する。

ア 学校Webページ等を活用し、幅広く積極的な情報提供を行う。

イ 保護者や中学校、地域等との相互理解・相互協力による良好な連携体制の構築を図る。

※保護者向け学校教育自己診断結果における情報提供に関する質問での肯定率（令和元年度 85.2%）を毎年引き上げ、令和4年度には90%以上にする。

平成29年度 88.9% 平成30年度 87.0% 令和元年度 85.2%

※保護者向け学校教育自己診断結果における「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率（令和元年度 70.4%）を毎年引き上げ、令和4年度には75%以上にする。

平成29年度 70.0% 平成30年度 82.6% 令和元年度 70.4%

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 2 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着に向けて授業力の向上に取り組んできた。生徒の「授業はわかりやすい」、「ICT 機器を活用している」の評価は高い。教職員では、「参加体験型学習」の評価が、他の項目に比べて低くなった。感染防止のため、グループワーク等で制限があったためと考えられる。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒へのきめ細かく丁寧な指導を心掛けてきた。生徒の「先生の指導は納得できる」の肯定的評価は高かったが、担任の先生以外への相談に関する肯定的評価が少し低い。生徒を支援するため、校内の相談体制の充実、外部機関や専門家との連携を推進していきたい。 学校行事に関しては、新型コロナウイルスの影響があったものの、生徒、保護者ともに高評価であった。 生徒の「生徒の意見を聞いてくれる」、「先生はお互いに協力し合っている」の評価が高かった。今後もチームで生徒指導に取り組んでいく。 保護者の「授業参観や学校行事への参加」や「生徒会活動」に関する項目が昨年に比べて評価が低くなった。これは、新型コロナウイルスの影響があったと思われる。「教育活動について提供の努力をしている」の評価が高くなったが、学校の状況を積極的に情報発信している姿勢が評価されたものと考えられる。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員向けのアンケートでは、いずれの項目も昨年より評価が低くなった。特に、「校長のリーダーシップ」については、7割の教職員が否定的な評価であった。これは、新型コロナウイルスの対応が評価に表れたものと考えられる。また、「日常的に話し合っている」、「組織的な対応」、「学校全体での取り組み」が評価の上がり方が大きかった。来年度は、風通しのよい職場環境に心掛け、組織的に対応できるようにしたい。 	<p>第1回 令和2年7月28日(火) 18:00~19:10</p> <p>○今年度の重点的な取組みについて協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次から2年次への進級だけでなく、2年次から3年次への進級も大切である。 学校に居場所を確保すれば出席率が高くなるのではないかと。 勤務実態調査の中に、「職場の中で相談できる人がいるか」「職場では周囲のサポートがあるか」などを入れてはどうか。 欠席する原因の一つひとつ探っていくことが大切。欠席の要因を生徒に考えさせるなど自覚させてはどうか。 出席率の算出方法に工夫があるのではないかと。いろいろな角度で統計をとることで原因が見えてくるのではないかと。 <p>第2回 令和2年12月4日(金) 18:00~19:10</p> <p>○今年度の取組みについて協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 自尊心が下がっている子どもたちが、楽しそうに取り組めること自体がよい体験になる。 認知機能トレーニングは、障がい理解するひとつのツールとして考えるとよい。 支援に関する取組みについては、2~3年かけて期待して見守りたい。 学校運営協議会で、支援について協議したことは有意義であった。 <p>第3回 令和3年2月16日(火) 18:00~</p> <p>○今年度の取組みについての協議と次年度の目標について承認</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートや学校教育自己診断の結果について、クロス集計を取り入れ、項目の関連性を検討してはどうか。 よく分かる授業にするための方策や組織力向上のための方策を具体的にどのように考えているのか。 組織力の向上や支援に力を入れるということについて、期待して見守りたい。 次年度のめざす学校像と中期的目標について承認をいただいた。 全日制課程のめざす学校像と中期的目標について、特に意見はなかった。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実	<p>(1)「分かる」「できる」「楽しい」を実感させる授業をめざす。</p> <p>ア 生徒の基礎学力の定着</p> <p>イ 生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教育内容の研究・実践を進め、プロジェクトやタブレット端末等、ICTを活用した授業を実施する。</p> <p>・相互授業見学、公開研究授業、研修等を通じて、授業力の向上を図る。</p> <p>イ・生徒の現状を把握し、希望する進路が達成できる教育課程の構築を図る。</p> <p>・定時制通信制教育研究会の活動へ積極的に参加し、情報交換、意見交換を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果におけるICT活用に関する質問での肯定率90%以上を維持する。(令和元年度91.9%)</p> <p>・授業見学週間、公開授業を実施する。</p> <p>・授業力向上に係る研修を年間3回以上実施する。(令和元年度5回)</p> <p>・授業アンケートにおける「授業に満足している」3.60P以上。(令和元年度3.47P)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断結果における授業に関する質問での肯定率75%以上。(令和元年度72.4%)</p> <p>イ・新教育課程に向けた協議が実施できたか。</p> <p>・定通教育研究会各部会が主催する研修会や三部合同研修会に参加し、校内で伝達する。研修への教員の参加率30%以上。(令和元年度29.4%)</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断におけるICTの活用への肯定率は93.1%で目標を達成。(○)</p> <p>・授業見学週間を10月に実施、公開授業は7月と10月に実施。(○)</p> <p>・4、5、8月に実施。内2回は、オンライン授業について実施。(○)</p> <p>・2回の授業アンケートでの満足度は、3.53Pにとどまった。今後も授業改善に取り組んでいく。(△)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における授業の肯定率は71.3%にとどまった。(△)</p> <p>イ・カリキュラム委員会4回実施し、通信課程併修を除いて完成。(○)</p> <p>・三部合同研修会、その他の研修の参加率は29.4%とわずかに及ばなかった。三部合同研修会は平日実施の影響があった。(○)</p>

府立春日丘高等学校 定時制の課程

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援</p>	<p>(1) 互いを尊重しあう精神を養う。</p> <p>ア 学校行事等を通じて、自主性を高め、協調性を育てる。</p> <p>イ 人権感覚を養う</p> <p>(2) 生徒の自己実現の支援</p> <p>ア 基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>イ 卒業後の進路を考えられるようにする。</p> <p>ウ 中学校等との連携の強化。</p> <p>(3) 学校への定着を図る。</p> <p>ア 組織的に生徒を支援する。</p> <p>イ SSW 等との連携を図り、相談体制を充実する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・部活動の充実や支援とともに、部活動体験を充実させ、部活動参加を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に生徒の意見を反映させ、生徒の積極的な参加を促す。 <p>・計画的に人権 HR を実施し、互いを尊重し合う精神を養う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・家庭との連絡を密にし、学校を休まないような生活習慣を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を集中して受ける姿勢をつくる。 ・禁煙教育、禁煙支援の充実に努める。 <p>イ・計画的・系統的なキャリア教育を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探求の時間やアルバイトの推奨等を通じて、就労・社会参加意識を醸成する。 <p>ウ・中学校訪問や中高連絡会を通じて、出身中学校等との連携を強化する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・中退防止コーディネーターを核とし、全校的に生徒を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中退率を低減させる。 <p>イ・SC、SSW 等を活用した相談体制を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内に居場所をつくり、中退防止につなげるとともに就労を支援する。 	<p>ア・部活動参加率 40%以上を維持する。 (令和元年度 41%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会交流会やリーダー研修を実施し、生徒会行事の活性化を図る。 ・生徒向け学校教育自己診断結果における行事に関する質問での肯定率 85%以上を維持する。(令和元年度体育祭 86%、文化祭 87%) ・SNS、LGBT 等に関する研修を 3 回以上実施する。 <p>(2)</p> <p>ア・出席率を向上させる。 (令和元年度 72.3%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートにおける「授業に集中して取り組んでいる」3.60P 以上。 (令和元年度 3.59P) ・喫煙生徒率 5%未満を維持する。 (令和元年度 3.2%) <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路に関する質問での肯定率 82%以上。(令和元年度 80.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在校生の就労を 70%以上にする。 (令和元年度 67.3%) ・進学者等を除く卒業生の学校斡旋就職率を 50%以上。(令和元年度 47.6%) <p>ウ・中学校訪問数 30 校以上。 (令和元年度 34 校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高連絡会を年 4 回実施する。 (令和元年度 4 回実施) <p>(3)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における満足度に関する質問での肯定率 85%を維持する。(令和元年度 86.0%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中退率 13%未満をめざす。 (令和元年度 16.3%) <p>イ・SSW や SC による研修の開催、及びケース会議を年間 30 回以上実施する。(令和元年度 36 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居場所となる「春定カフェ」の内容を充実させ、利用者平均 25 人以上。 (令和元年度利用者平均 28 人) 	<p>(1)</p> <p>ア・部活動生徒参加率 40%であった。年度当初の休校の影響を考えると目標を達成したといえる。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会交流会、リーダー研修共に中止となり評価できない。 ・生徒向け学校教育自己診断の行事への肯定率は、体育祭 84%、文化祭 84%と雨天や感染対策の影響があったものが高かった。(○) ・いじめ防止、SNS、デート DV、LGBT、人権尊重など実施した。(○) <p>(2)</p> <p>ア・出席率は 77.5%と向上した。コロナ禍の中よく頑張っている。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 回実施した授業アンケートの平均は、3.57P であった。今後も継続して指導していく。(△) ・喫煙生徒率は 2.3%であった。(○) <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の進路に関する肯定率は 82.6%であった。計画的に取組めた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のためアルバイトに就くことができない影響もあったため 55.4%にとどまった。(△) ・進学者等を除く卒業生の学校斡旋就職率は 47.1%であった。(△) <p>ウ・12 月～1 月にかけて 37 校訪問し、情報交換を行った。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため 10 月に 2 回実施。適応指導教室を含む 20 校、26 名の参加があり情報交換や授業見学など有意義であった。(○) <p>(3)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における満足度に関する肯定率は 88.4%であった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中退率は 16.7%である。(△) <p>イ・認知機能に関する研修を実施した。SSW 参加のケース会議を 30 回実施した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため実施できず、評価できない。
---	--	---	--	--

府立春日丘高等学校 定時制の課程

<p style="text-align: center;">3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進</p>	<p>(1) 組織体制の改善・充実を図り、機能的な運営に努める。 ア 教職員の資質を向上させる。 イ 学校運営組織の強化と効率化。</p> <p>(2) 地域とつながる学校づくりを推進する。 ア 積極的な情報提供を行う。 イ 相互理解・相互協力による良好な連携体制の構築を図る。</p>	<p>(1) ア・人権意識を高めるための研修を実施する。 ・国や府の動向、生徒の現状を踏まえ、研修を実施する。 イ・教職員一人ひとりの意識を改革し「働き方改革」を学校全体で推進させる。 ・PDCA サイクルを活用し、校務運営を活性化する。 ・全日制との連携・協力体制を充実させる。</p> <p>(2) ア・Web ページによる情報発信の充実に努める。 ・学校説明会等の内容を精査し、学校への理解が深まるように充実させる。 ・地域との交流を推進する。 イ・学校教育自己診断や行事でのアンケートなどで保護者の思いや期待を収集し、学校との協力体制の推進に活用する。 ・学校運営協議会の充実に努める。</p>	<p>(1) ア・人権に関する研修を2回以上実施する。 (令和元年度4回実施) ・生徒の現状に関する研修を2回以上実施する。 (令和元年度2回実施) イ・年間時間外勤務を平均210h以内にす る。(令和元年度212h) 2月末予測 ・教職員向け学校教育自己診断結果における校務運営に関する質問での肯定率90%以上を維持する。 (令和元年度100%) ・定期的な全定合同連絡会を4回開催する。 (令和元年度4回実施) ・授業見学や救命講習会等への教員の参加者10名以上。</p> <p>(2) ア・Web ページで部活動や学校行事等を紹介する。90回以上更新する。 (令和元年度100回更新) ・学校説明会を年3回実施する。 (令和元年度3回実施) ・地域イベントへの参加生徒率10%以上。 (令和元年度12.1%) イ・保護者向け学校教育自己診断結果における「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率75%以上。 (令和元年度70.4%) ・保護者向け学校教育自己診断アンケートの回収率を25%以上にす る。 (令和元年度20.9%) ・体育祭、文化祭に来校する保護者、地域住民等の人数を増やす。 (令和元年度体育祭49人、 文化祭107人) ・学校運営協議との更なる連携を図り、意見を教育活動に活かす。</p>	<p>(1) ア・セクハラ、パワハラ、同和教育、LGBTの研修を行った。(○) ・4月に実施した後、新型コロナ対応のために2回目が実施できなかった。(△) イ・平均191hであった。(○) ・教職員向け学校教育自己診断における校務運営に関する肯定率は85.3%だった。次年度は、校務運営について見直していく。(△) ・全定連絡会を4回実施した。必要に応じて連絡調整を行った。(○) ・コロナ禍のため、日程調整が難しくかったため評価できない。</p> <p>(2) ア・准校長通信91回などWeb ページを137回更新し、生徒の様子や学校行事を随時掲載した。(◎) ・学校説明会を11月、12月、1月に実施した。(○) ・コロナ禍により中止となったため評価できない。 イ・「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」82.1%と昨年に比べて大きく上がった。コロナ禍の中での学校の取組が評価に表れた。(◎) ・保護者向け学校教育自己診断の回収率は24.1%であった。(△) ・コロナ禍のため、体育祭は非公開、文化祭は家族のみに制限したため評価できない。 ・コロナ禍の中、3回の協議会を開催することができた。(○)</p>
---	---	---	--	---